　平成26年3月18日

リトルワールドキャンプ実行委員会

１０周年記念イベント活動報告書

リトルワールドキャンプ実行委員会とは

＊私たちのミッション＊

静岡県には、様々な国の文化をもった方々が住んでいます。しかし、日常生活でその文化に接する機会はあまり多くありません。そこで、様々なレクリエーションを通し、子どもたちが異文化に興味を持ち、理解する場を作りたいという思いから始まったのが、リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）です。「私たちは多文化共生キャンプを企画・運営することによって静岡県内に住む子どもたちが身近な異文化との関わりを意識して、それを受け入れていけるようなきっかけを提供します」というミッションのもと毎年改善を重ねてキャンプを企画運営しています。

１．イベントの目的

　2003年4月に津富先生のゼミの学生によって、静岡県内に住む外国に繋がりのある子どもたちと日本人の子どもたちとの相互理解を深めるために企画されたリトルワールドキャンプは、サークル化を経て、今年で10回目を迎えます。ここで、リトル10年間の歴史を振り返るとともに、リトルを創立しこれまで支えてきてくださった関係者皆様に感謝の気持ちを伝え、そして改めてリトルが目指す“多文化共生”について考えるためにこの10周年記念イベントを企画しました。

２．活動内容

・日時　平成26年3月2日(日)

・場所　静岡県立大学

・参加者　２５名(OBOG12名、ボランティアスタッフ3名、大学女性協会の方5名、　　　　　　外国人学校の先生、静岡大学NPO法人ONESの方4名)

　＜一部＞今までのリトルワールドキャンプについて、スライドで振り返る

　　　＜二部＞ミッションワーク　参加者の方々と共に、「多文化共生」について考える

　　　＜三部＞参加者の方々との食事会

一部では、まず、部長挨拶から始まりましたが、最初から懐かしむ声や、笑い声も聞こえ、10週年式典という名前でしたが、和やかな雰囲気でスタートしました。その雰囲気は最後まで続き、パワーポイントの記述も分かりやすく、参加者も懐かしい記載を目にしては談笑する場面も見られました。静岡県の現状に関する発表の際も、参加者からの良い反応が見られてよかったです。

第二部では「多文化共生」をテーマとしたミッションワークを行いました。このミッションワークは３つの段階を踏んで行いました。まず一段階目には、参加者の方に「なぜ多文化共生ということばが生まれたのか？」というテーマで話し合って頂きました。５つの班に分けてミッションワークを行い、どの班も様々な意見が出て議論が白熱していました。第二段階目に「どんな時に多文化共生を意識しますか？」という問いかけをしました。自分の身の回りで感じた多文化共生など各々の意見や考えがよく表れていました。そして最後に「あなたが、リトルワールドキャンプができる多文化共生は？」という問いかけで今後私たちができる多文化共生について考えました。ミッションワークを通して様々な意見が出たので、話し合いで終わるだけでなく今後の活動に反映させていくことが必要だと思いました。

第三部では、大学の下食堂を貸切りオードブルやお寿司、飲み物を用意して懇親会を行いました。外部団体の大学女性協会の方や静岡大学NPO法人ONESさんは残念ながら第二部でお帰りになりましたが、たくさんのOGの方々が参加してくださいました。第一部、第二部の真面目な雰囲気とはまた異なり、食事を囲みながら和気藹々といろんなお話を参加者のみなさんとすることができました。かつてのリトルの活動のお話、現在お仕事でご活躍されているお話、どれも興味深いものばかりでした。

３．まとめ

今回行われた十周年記念イベントは、長い時間をかけてメンバー皆で意見をぶつけ合いながらプログラムの内容決めていくことが出来ました。その中でも、一番時間をかけて決めたのがミッションワークを話し合うテーマでした。当日は、参加者の皆様が積極的に意見を出して下さったため、皆で時間をかけて考えた甲斐があったと感じられました。中でも、外部の方からの意見は、新鮮味があり大変勉強になりました。一方で、時間配分がうまくいかず、急遽カットするプログラムが出てしまいました。事前のリハーサル・危険予測の段階で、より本番を意識して行うことの重要性が課題となりました。

全体として大きなトラブルもなく、無事に10周年イベントを終えられたことを嬉しく思います。第一部～第三部、すべての部を通して私たちなりの形で10年分の感謝の気持ちを伝えることができたのではないかと思います。この場をお借りして、改めて、今までリトルワールドキャンプを創り上げ、支えてきてくださった先輩方、顧問の津富先生、関係者すべての皆様に厚く感謝申し上げます。メンバーも各々、今回のイベントの中でリトルの活動やミッションを見つめなおす良い機会となりました。次は、私たちの手で、新たな10年間を創り上げていきます。今後も、皆様との繋がりを大切にしながら、日々の活動に励みたいと思います。